



京都府立鴨沂高等学校同窓会

## 奨学金制度

2017(平成29)年度 奨学生

## 寄稿文

### 「奨学金と努力」

二年 K・F

私は奨学金を受け取って、参考書に利用しました。塾に通わずに自分の力だけで学習していた私にとって参考書はとても大切なものとなりました。実際、長期休暇を利用して学習し、模試に向けて参考書とにらめっこしながら努力したので結果は悪くありませんでした。また、参考書を奨学金で購入したことで能動的に学習に取り組むようにもなりました。

自分の学習についても、自分の心についても両方において成長することができるようになったのは奨学金を下さった同窓会の方々のおかげです。この成長をした自分をもっと伸ばしていけるように努力を続けていこうと思います。これからの使い道としては、大学受験のため、センター試験のための対策問題集で着実に合格のできるような勉強方法を探りながら学習を進めていきたいです。そのためにはやはり基礎が必要であり、それを応用できるくらいの学力を養っていこうと思います。

同窓会の方々の応援にこたえることができるように日々勉学に励み、自分自身もより一層成長していきたいです。また、自分が応援する時がきたら自らの経験を活かし、応援していけるようになりたいです。ここまでの自分を成長させて下さった鴨沂高等学校同窓会の方々に、良い報告ができるよう、卒業するまで、学校生活を充実したものにし、友と高め合い、成長し合うことを目標に掲げていきます。

## 「これからの社会のために」

二年 N・T

私は今年度、「同窓会奨学金」を支給していただきました。

私がこの奨学金に申請した理由は、私の家は私が小学四年生のころから母子家庭で経済的に苦しい状況が今も続いているからです。月々のおこづかいも与えてもらっていなかったもので、申請させていただきました。

私は、家庭がこういった状況で自分がアルバイトをするべきだと考えました。しかし自分が今やるべきことは、アルバイトではなく、勉強することだとも思いました。最近では、高校生がアルバイトをすることは比較的多いと感じます。経済的な理由でアルバイトをしなければならない人もいると思います。そういった人をこれから支えていけるような社会を日本はつくるべきだと私は思います。そういう社会をつくることで、日本の経済的な発展につながればいいなと思っています。

私は将来、地域社会で役に立てる職業につきたいと思っています。地域の活動センターなどで、小さい子どもからお年寄りの方まで、幅広い世代の人とふれ合い、家庭環境や学校、職場などでの悩みを聞いてあげられるような職員になりたいです。自分に身近な地域の人々の意見や声を聞き、それを取り入れながら地域づくりに努め、多くの人の支えになればいいなと思っています。

コンビニで、パン一つを買う、ジュース一本を買うことを我慢する。そんな生活をする人ばかりであふれるような社会になってしまう日が、もしかしたら来るかもしれません。でも、私はそのような社会はつくりたくありません。一人一人が、全ての人々が平等で、安定した生活を送れるような社会をつくるのが、私たちの使命だと思います。

## 「これからの生活」

二年 S・M

私は、この先何を目指して頑張ればいいのか。二年生になってから、特にこの悩みが強くなった気がします。なぜなら、身近な人から夢の話や進路の話について聞くことが増えたからです。私はまだ夢も見つかっていないし、行きたい大学も決まっていません。だから目標をもって将来のために勉強できている人が羨ましいのと同時に焦りを感じていました。

そんな時、奨学金をいただくことが決まりました。自分のことを見守り、支えてくださっているように感じ、より勉強に身が入るようになりました。

今までは、わからない問題を先生や友達に聞くこともあまりありませんでした。しかし、わかるようになりたいという思いから、積極的に質問するようになりました。また、苦手な理数系の教科も、苦手意識を失くすために、その分野の本を読んでみました。得意な友達に魅力を聞いて、良さも理解できるようになりました。そのおかげで、苦手だから無理だと思わずに向き合うことができました。

いただいた奨学金は、問題集や模試を受ける際、または学部・学科についての本を購入する際につかわせていただこうと考えております。これからは前向きに自分の進路や夢について検討していきたいです。

最後になりましたが、ご支援いただきありがとうございました。日々の学習により一層励んでいきたいと思っております。

## 「受験生活を通して」

三年 N・Y

この度は奨学金を支給していただき本当にありがとうございました。僕は割と多くの大学を受験したのでその時の受験費用などに使用させていただきました。

受験勉強は長くつらいこともありましたがメリハリをつけて勉強できたと思います。僕は発展コースに在籍していたので大学受験する友達もたくさんいてお互いを刺激し合っている時には励まし合い勉強できました。また僕は塾には通わなかったため、基本は本屋などで参考書等を購入し、勉強しました。その時にも奨学金

を使用させていただきました。学校生活においても文化祭、体育祭など楽しかった行事がたくさんあり、唯一新校舎が建たなかったことが残念でしたがそれ以上に楽しい学校生活を送れました。

今の時点では自分の進路はまだ決定していませんがどの大学に行こうと自分のやりたいことに全力で取り組めるようがんばりたいと思います。

大学に入っても勉強することを毎日欠かさずいい大人に一歩でも近づけるようがんばります。

## 「奨学金について」

三年 F・T

今回このような鴨沂高校同窓会の奨学金制度を利用させていただいて、私はとても感謝しています。一つには経済的な面、そしてもう一つには私の精神的な面があります。

まず、私はこの制度でいただきたい奨学金は自らの大学受験の勉強に使う参考書等に利用させていただきました。私自身、塾や予備校などには通っておらず、学校の勉強と自宅学習のみだったので、実際、参考書は奨学金をいただく以前から購入していました。しかし、勉強のためとはいえ一冊千円から二、三千円する参考書をためらわずに購入することはできませんでした。そこでこの制度を先生に勧められ、毎月いただく奨学金は全て自分の参考書のために使おうと決めました。それからは自分のためになる本を見極め、少し値の張るものでも買おうと思えるようになりました。

次に、私は奨学生に選ばれたことで自信がつくようになりました。以前に別の奨学金制度に申し込んだ時は選考の結果、不採用だったため、自分を過小評価してしまいました。しかし、今回こうして認めてもらえたことで一年生、二年生の時頑張っていた甲斐があったなと思えるようになりました。そして、選んでもらったからにはまだまだ手は抜けないなど、自分の中で一定のスイッチが入り、ますます勉学に励むきっかけにもなりました。

そのような点があつてこそ、私は第一志望の京都府立大学文学部に合格できたのだと確かに思います。大学では自分の得意な英語を伸ばし、興味のある英文学も専攻に学んでいきたいです。また、鴨沂高校同窓会の奨学金制度で手に入れた自信を持って心身共に成長していけるようこれから残りの高校生活、大学生活を過ごしていきます。

最後に、この制度が鴨沂高校生にさらに浸透し、さらなる発展につながるよう願っています。

## 「奨学金をいただいて」

三年 S・A

私が進路を考え始めたのは、二年生になってからでした。それまでは、具体的な将来の夢を持っていなかったのですが、毎日の授業に集中し、一生懸命、考査に取り組み、基礎力をつけることを目標としていました。

そんな中、奨学金をいただけることとなり、行きたい大学や勉強してみたいことを具体的に考えるひとつのきっかけとなりました。

私は小学生の頃から祖父母や両親から「面倒見が良い」と言ってもらえたこともあり福祉関係の勉強をしたいと思うようになりました。

どちらかと言えば、人の多い場所に外出するのが苦手な方で、塾に通うことは好きではなく、経済的にも余裕がないため、自宅学習していました。いただいた奨学金で参考書や問題集を購入し、受験勉強スタートすることができ、大変、有難いとおもいました。

おかげで、希望していた大学に指定校推薦をしていただくことができ、大変幸せなことだと、嬉しく思っております。

このように、恵まれた環境を大切に思い、私のためにご尽力いただいた方々に対しての感謝の気持ちを忘れず、毎日を精一杯、過ごすように努力していきたいと思えます。

そして、勉強だけでなく、生きていくために必要なことを私なりにひとつひとつ身につけていけるよう、歩んでいきたいと思っております。